

bauma CONEXPO INDIA 2026

ファイナルレポート

国際建設機械・建設資材製造機械・鉱業機械・建設車両専門見本市

2026 年 9 月 15 日～18 日

インド・エキスポセンター

2026 年 9 月 18 日

bauma CONEXPO INDIA 2026

グレーター・ノイダにおいて過去最大規模で開催

本見本市には、100 を超える国・地域から 1,100 社以上のブランドが出展し、59,004 人の業界関係者が来場した。会場総面積は約 13 万 4,700 平方メートル(東京ドーム約 3 個分)に及んだ

Summary

- 事前に選定された 6,615 件のバイヤ・セラミーティングによって、具体的な商談が進められた
- 15 を超える州から公式代表団が来場し、インド国内の産業連携を一段と強化する契機となった
- 併催された業界カンファレンスでは、解体技術、高耐久性コンクリート、先進フルードパワシステム、さらには、今後の産業発展に向けた重要課題などについて議論された



Facts & Data

会 期	2026 年 9 月 15 日(水)～18 日(土) 10 時～18 時 (最終日のみ 17 時まで)
会 場	グレーター・ノイダ/インド・エキスポセンター
主 催	Messe Muenchen - メッセ・ミュンヘン AEM - 米国機器製造業協会
共 催	BAI - インド建設業協会
規 模	134,700 m ² (2024 年: 135,000 m ²)
出 展 社 数	100 カ国以上から 1,100 ブランド(2024 年: 30 カ国から 984 社)
来 場 者 数	59,004 人(2024 年: 83 カ国から 51,118 人)
主 な 出 展 製 品	建設機械、建設車両、リフト、コンベヤー、建設機器・工具、特別システム、コンクリート・モルタル処理・製造、型枠、足場、建設現場施設、原料抽出・鉱業機械、原料処理、材料調整技術、建材用セメント・石灰・石膏製造、コンクリート・コンクリート製品・プレハブ構成材製造機械・システム、アスファルト製造機械・システム、予混合ドライモルタル・漆喰・スクリード製造機械・システム、石灰砂岩・発電所残渣使用建材機械・システム、石膏・石膏ボード・その他装置・付属品製造機械・システム、建材輸送、包装、駆動・流体技術、発電ユニット、付属品、予備・部品、サービス、検査、測定、制御、コントロールシステム技術、通信、ナビゲーション、作業安全 など
出 展 日 本 企 業 (現法出展など含む)	アネスト岩田(株)、ウエダ産業(株)、(株)クボタ、(株)小松製作所、(株)三和ダイヤモンド工業所、(株)タダノ、トヨタエ機(株)、(株)トプコン、ニッタ(株)、日立建機(株)、本田技研工業(株)、三菱マテリアル(株)、油研工業(株)、横浜ゴム(株)、レフィクシア(株) ほか

bauma CONEXPO INDIA 2026 は、India Expo Centre において 4 日間の会期を終えた。本見本市は、建設・鉱山機械業界の関係者を一堂に集め、ビジネス交流、技術展示、産業課題に関する対話の場となった。

開会式には、Border Roads Organisation(インド国境道路機構)の Director General である Lieutenant General Harpal Singh 中将をはじめ、各州政府、外交団、業界団体、国際ネットワークの上級代表者らが臨席した。こうしたことから、本見本市が、インドのインフラ整備を支える企業・機関にとって重要な交流の場であることが分かる。

本見本市には 1,100 社を超えるブランドが出展し、59,004 人の業界関係者が来場した。会場では、建設・鉱山機械、コンポーネント、アタッチメント、デジタルアプリケーション、各種サービスを一つの産業プラットフォーム上に結集させた。この見本市を通して、メーカ、機械・設備ユーザ、プロジェクト関係者、公共機関などは、この業界の次の成長段階を形づくる技術力と支援ネットワークの全体像を把握することができた。

本見本市は、規模だけでなく、来場者の質の高さでも際立っている。4 日間にわたって、経営層を含む意思決定者、建設事業等の発注者、請負業者、建設機械・車両の運用事業者、公共機関、テクノロジーの導入を担う購買担当者が、出展者と商談を行った。

そして、ブランドアンバサダを務めた Neeraj Chopra 選手(陸上競技・やり投げ)と Harmanpreet Kaur 選手(クリケット競技)は、トップアスリートに求められる規律、パフォーマンス、不屈の精神を、インドのインフラを支える人々と機械に重ね合わせ、このキャンペーンの全国的な注目度を高めた。

インフラ開発計画の進展が各機器カテゴリの需要を拡大

インドが進めるインフラ開発プログラムによって、交通インフラ、都市開発、鉱山、住宅、および産業建設の各分野で必要とされる機器の範囲が拡大し、その仕様も多様化している。展示会場での対話からは、多様な地形、厳しい工期、そしてますます複雑化するプロジェクト環境において、機械を効果的に投入する必要性が浮き彫りとなった。

本見本市は、公的機関、デベロッパー、EPC(設計・調達・建設)企業、請負業者、およびテクノロジープロバイダが一堂に会し、今後予定されているプロジェクトのニーズと、対応可能なエンジニアリング能力との整合を図る場となった。機械本体、コンポーネント、そしてこれらをつなぐコネクテッドシステムをまとめて展示することによって、インフラ投資を、確実に現地施工へと結びつけるために不可欠な、パートナーシップとサプライネットワークを強化した。

VR ゾーンでは、来場者に向けて未来の建設現場を没入感のある映像で紹介した。体験型のデモンストレーションを通して、建設ロボティクス、次世代駆動システム、アディティブマニュファクチャリング(3D プリントによる積層造形技術)、さらには将来のプロジェクト環境における機械やインタフェースのデジタル化が持つ可能性を体感させた。

メッセ・ミュンヘンの IMEA(インド・中東・アフリカ)担当プレジデント兼メッセ・ミュンヘン・インド CEO のブピンダー・シンは、「見本市の真の価値は、閉幕した後にもどのような変化をもたらすかによって証明される。今回の見本市は、プロジェクトオーナー、請負業者、メーカ、そしてテクノロジープロバイダが一堂に会し、プロジェクトの確実な遂行を目指して連携したことによって大きな弾みをつけた。ここで生まれた、引き合い、パートナーシップ、フォローアップ協議は、その勢いを、インドのインフラ分野全体において具体的なビジネス成果やプロジェクト成果へと確実に結びつけていくであろう」と述べている。

世界各国からの参加が技術と業界間の交流を拡大

本見本市には 100 を超える国・地域からの参加があった。海外の多様な企業の出展によって、幅広いエンジニアリングアプローチ、製品のアーキテクチャ(基本設計思想)、およびサービスモデルが紹介された。このことによって、インドのステークホルダーは、世界各市場における機械・設備の設計から導入・運用

までの具体的な方法を比較して捉える機会を得た。一方、海外からの参加者にとっては、インド各地における多様な用途やプロジェクト環境を把握する絶好の機会となった。

ドイツ、中国、イタリアのナショナルパビリオンに加え、Taiwan Fluid Power Association(台湾流体駆動工業会)パビリオンや海外からの来訪代表団は、技術面でのベンチマーキングや機関・団体間の交流を促す場となった。国境を越えて、メーカーや業界団体、エンジニアリングコミュニティを結びつけることによって、本見本市の役割を、単なる製品展示の場から、業界関係者が共に学び合うプラットフォームへと拡大させた。

メッセ・ミュンヘン CEO のシュテファン・ルンメルは、「インドは今や経済大国であり、2030 年までに世界第 2 位の建設機械市場へと成長する道筋を着実に進んでいる。インド全土において、近代的な高速道路、高速鉄道網、新空港の建設といった変化を目にすることができる。インドは、bauma のグローバルネットワークにおいて極めて重要な役割を担っている。成長を続けるインドの勢いはグレーター・ノイダでも存分に示されており、我々は bauma CONEXPO INDIA の史上最大規模となる見本市を、ここグレーター・ノイダで開催した」と述べている。

バイヤ・セラーフォーラムがビジネス開発の構造化を推進

バイヤ・セラーフォーラムでは、6,615 件を超える事前に選定された商談が実施された。このフォーラムは、EPC(設計・調達・建設)企業、請負業者、レンタル事業者、メーカー、サプライヤーと、調達、技術、資産管理を担当する部門・チームを結びつける役割を果たした。的を絞った 1 対 1 の対話形式により、参加者は、現在および今後予定されるプロジェクトの要件に照らして、供給能力を相互に評価することができた。本見本市には、ビハール州、アンドラ・プラデシュ州、チャッティースガル州、グジャラート州、ジャールカンド州、ジャンム・カシミール連邦直轄領、タミル・ナードゥ州、ケーララ州、カルナータカ州、マディヤ・プラデシュ州、ウッタラーカンド州、ラージャスターン州など、15 を超える州・連邦直轄領から代表団が来場している。このことは、インド各地で本見本市に幅広い関心が寄せられていることを示すものである。

Afcons Infrastructure 社 Plant & Machinery 部門 Deputy General Manager の A. M. Jabir 氏は、「今回は、調達、プロジェクト、運用の担当者とともに来場した。この参加を通して、今後の業務に向けた機械装備の調達に対する共通方針を社内でも共有することができた。その構成仕様を、この 1 カ所ですべて比較評価ができたことによって、選択肢を絞り込むことができ、これからの実際の調達に向けた技術要件をより明確に策定することができた」と述べている。

業界プログラムがプロジェクトの成果を支えるテクノロジーに焦点

併催されたカンファレンス・プログラムでは、建設機械の性能や建設工事の成果に直接影響する課題を中心に、業界団体や技術専門家、企業経営者による議論が交わされた。

主なセッションとして、Indian Demolition Association(インド解体業協会)が主催した「Engineering the Future of Deconstruction(解体工事の未来を切り拓くエンジニアリング)」、Indian Concrete Institute(インドコンクリート学会)のデリー支部が主催した「New Ingredients for Durable RCC for Longer Service Life(長寿命化に向けた耐久性の高い鉄筋コンクリートの新たな材料・技術)」、そして、Fluid Power Society of India(インド流体動力学会)による、建設機械業界向けの「先進的な流体動力ソリューション(油圧・空圧技術)」に関するカンファレンスなどが行われた。

Indian Concrete Institute – New Delhi Centre の Chairman、Er. Pradeep Garg 氏は、「本見本市は、コンクリート工学をインドのインフラ構築を形作る近代技術に、一気に近づけるものであった。専門家、請負業者、プロジェクト関係者が、既存構造物の状態評価や施工手法、非破壊検査、補修・補強の実務を共有し、既存の建設資産やインフラの供用期間を延ばすための知見を高める共通の場となった」と述べている。

Fluid Power Leadership Forum では、テクニカルプログラムに経営層の視点を加えた。一方、Pavers and Blocks Manufacturers Association(舗装材・ブロック製造業者協会)は、見本市の会期中に会員企業を集めた会合を開催した。これら一連の議論では、材料、システム、規格、メンテナンス、技術スキル、

そして経営判断が、生産性、安全性、さらには機械・設備などの資産の長期的な性能にどのような影響を及ぼすかについて検討された。

Fluid Power Society of India (FPSI) の全国評議会コアメンバー、Suresh Kannan V 氏は、「bauma CONEXPO INDIA 2026 で開催された FPSI Conference と Fluid Power Leadership Forum には、企業の最高経営責任者、技術専門家、建設機械メーカ、流体動力機器コンポーネントメーカ、さらにサプライチェーンおよび技術革新の主要な意思決定者が一堂に会した。急速に成長する建設機械産業の要件に応えるための流体動力ソリューションの高度化について議論が行われた」と述べている。

共同開催とパートナーシップが技術討議の幅を広げる

Demtech 社との共同開催によって、同プログラムの焦点は、解体、リサイクル、そして特殊な解体技術へと広がった。これを受けて、請負業者、機器メーカ、技術専門家が一堂に会し、より安全な施工方法、資源回収、プロジェクト計画、さらに複雑な解体作業において変化する機器の要件について、議論が交わされた。

Indian Demolition Association (インド解体業協会) の Chairman、Fazrulla Basha 氏は、「Engineering the Future of Deconstruction と題したカンファレンスでは、解体を専門的なエンジニアリング分野として位置づけ、解体前監査、構造物に関する記録の整備、計画的な施工手順、そして専門職としての基準の強化に焦点を当てた」と述べている。

bauma CONEXPO INDIA 2026 は、メッセ・ミュンヘン・インドと 米国に本拠を置く Association of Equipment Manufacturers (機器製造業者協会) が主催し、Indian Construction Equipment Manufacturers' Association (インド建設機械製造業者協会) がパートナー団体として、Builders' Association of India (インド建設業者協会) が共同主催者として参画した。また、National Highways Authority of India (インド国家高速道路庁) および National Institute of Rock Mechanics (国立岩盤力学研究所) の後援を受け、Government of Bihar (ビハール州政府) が州パートナーとして参加した。

出展者とバイヤ、調達を見据えた具体的な商談を展開

出展者側からは、来場者が明確なプロジェクト条件を把握し、機材の性能やサポート体制を評価するうえで必要な基準についても、十分に理解した上で来場していたとの報告があった。

建設機械メーカやサプライヤは、見本市の規模を生かし、大規模プロジェクトの発注者、全国規模で事業を展開する EPC 企業 (設計・調達・建設を一括して請け負う企業)、地域の施工業者、レンタル機材事業者、採石事業者、部品の調達担当者など、幅広いバイヤ層と商談を行うことができた。

一方、バイヤ側にとっては、現場での試用や導入費用などの検討、調達に向けた協議に進む前に、競合する複数ブランドの機材やサポート体制を比較検討できる点が有益であった。

見本市を終え、ビジネスは次の段階へ

bauma CONEXPO INDIA 2026 の閉幕を機に、関係各社の取り組みは次の段階に入る。出展企業各社は、見本市期間中に始まった技術的な問い合わせへの対応や実機デモンストレーション、販売代理店との協議を進めるとともに、取引に関する提案についても具体化が進むこととなる。一方、バイヤ側も、プロジェクトの工期や現場の諸条件、保有機材の要件に照らし合わせながら、候補機材の絞り込みやサプライヤの評価が続く。

次回の bauma CONEXPO INDIA は 2028 年に開催が予定されており、インドの建設・鉱山機械業界の関係者と、各種の建設・鉱山機械が一堂に集まる場となる。開催日程および会場の詳細は、追って発表される。

詳細情報と最新写真は、専用ホームページ (www.bcindia.com) で入手できる。

資料請求、出展申込み、各種お問い合わせ先:

メッセ・ミュンヘン 日本代表部

株式会社メッセ・ミュンヘン・ジャパン

〒105-0001 東京都港区虎ノ門 3-20-3 ノアーズアーク虎ノ門 5 階

Tel.: 03-6402-4583 Fax: 03-6402-4584 E-mail: info@messe-muenchen.jp

URL: www.messe-muenchen.jp (日本語) www.messe-muenchen.de (英語 / ドイツ語)